

福井県立恐竜博物館建設事業

受賞機関 福井県土木部営繕課

はじめに

当施設は、福井県が有する豊富な恐竜資源を学術研究をはじめ、生涯学習、地域振興、イメージアップ等に活用し、国内外に広くアピールするとともにわが国の恐竜化石研究の拠点として、国内初の恐竜専門の展示・研究施設が計画され、平成12年7月にオープンした。

事業の概要

所在地：勝山市村岡町(勝山市長尾山総合公園内)

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造 地上3階 地下1階

規模：建築面積 8,792㎡ 延床面積 15,086㎡

工事費：約90億円

設計：(株)黒川紀章建築都市設計事務所

事業の特徴

緑豊かな長尾山の自然の地形を極力保存しながら、地形の起伏を積極的に利用するために、建物は敷地の高低差の中に沈み込ませて、山に根付いた自然と一体化した建築としている。

建物は、管理研究部門を中心としたウイング棟と、展示が中心の恐竜ホール棟によって構成され、特にウイング棟の3階エントランスホールからエスカレーターで一気に地下に下り、ダイノストリートと呼ばれる通路を経由して恐竜ホール棟の1階へアプローチする動線は、現代から古代の失われた恐竜王国へタイムスリップしたような雰囲気味わせてくれる。

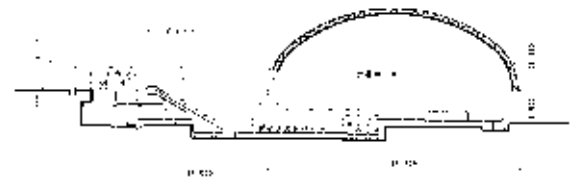
ウイング棟の北面は、地形をイメージした柔らかな曲線の大壁面とし、コンクリート打放しと越前瓦タイル(地場産材)の異種素材による2層構造とすることで地層を暗喩している。南面はカーテンウォールによって、手前の山の緑を建物に写し込むことで一層建築を自然と同化させ、また、約20度傾斜することで、夏期の太陽からの直射熱による熱負荷を軽減させるとともに、雨及び雪によるガラスの汚れ付着を最小限に防止した。



恐竜ホール内部



全景



断面図

恐竜ホール棟は、建物の容積を最小の表面積で覆う回転楕円体とし、表面の熱負荷を最小限に抑える省エネに配慮した。

開館記念イベント(恐竜エキスポふくい2000)の開催により、全国に「恐竜王国ふくい」が広報PRされ、イベント終了後も週末には多くの来館者を集めているとともに、各種セミナーや学習会が開かれ地域との結びつきを深めている。

受賞賛助会員 (株)熊谷組福井営業所、前田建設工業(株)福井支店